

图35 12号住居址出土土器实测图 (1:4)



IV-12 12号(上)·17号(下)住居址

13号住居址

【遺構】(36図) 調査地
中央に位置し、北東隅で
1号溝址、63号・64号土
坑、南東隅で9号溝址、
南西隅で10号溝址と重複
関係にある。西壁側に
旧々体育館により破壊を
うける。形態は方形を呈
し、南北6.1m・東西6.2
mを測る大形の住居址で
ある。主軸方向はほぼ南
北を指す。掘り込みは北
壁22cm・南壁10cm・東壁
22cm・西壁20cmである。
床面は中央付近に高まり
をみせ、堅緻な貼床が2
面認められた。下層面と
上層面との間層は5cm程
あり、炭化物を多含する
黒褐色土である。カマド
は北壁中央に構築されて
おり、焼土塊化した火床
が残存する。東壁中央付
近にも火床が認められ、

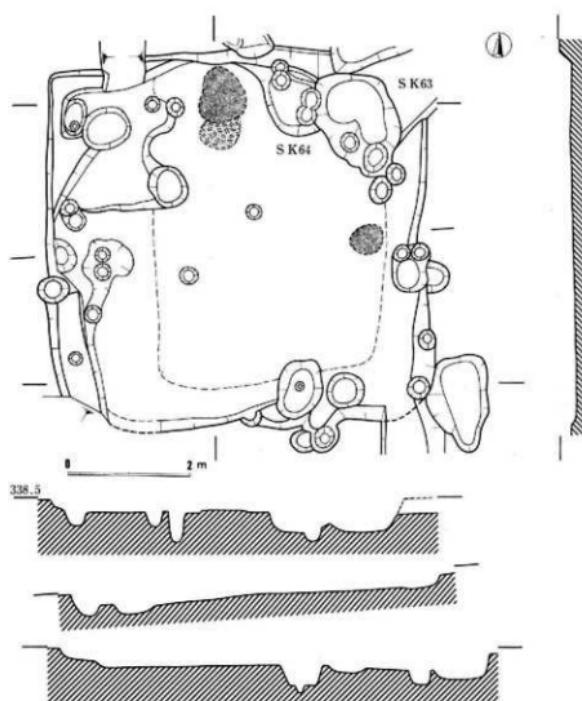


図36 13号住居址、63号・64号土坑実測図 (1:80)



IV-13 13号住居址

下層面のカマドの痕跡であろう。柱穴と思われる小穴が壁際に点在するが小屋組配列にならない。

[遺物] (37図) 遺物も上・下層に分離するが両面とも出土量は多い。土師器壺(1・3~6・13~16)・内黒壺(2・7~9・12)・椀(10)・甕(11, 18)、須恵器壺・甕の器種があり、下面では上面の器種のほかに土師器皿(17)がみられる。2には放射状の暗文、7には十字の暗文、12には6区画の暗文が描かれるが、7はヘラミガキがみられなく、12の体部下半に同手法が及んでいない。17は底部外面を除きヘラミガキが施され全面黒色を呈する。須恵器は小破片で少量出土しているにすぎず主体的器種構成に関与していない。

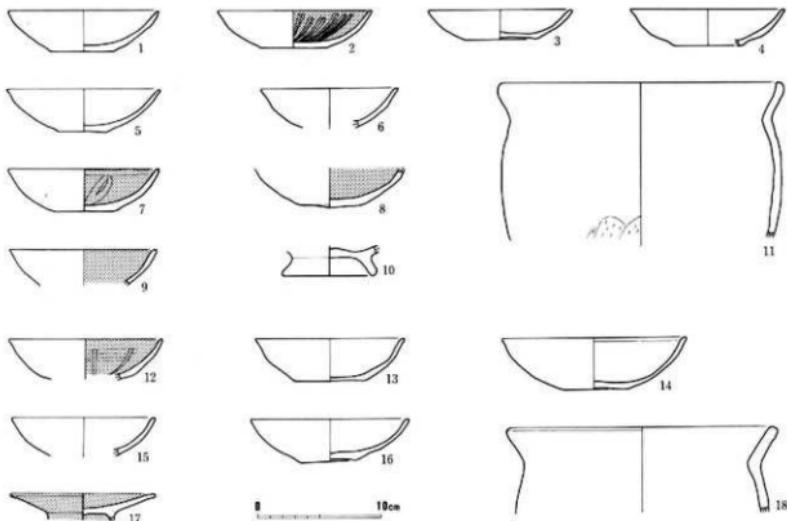


図37 13号上(1~11)・下(9~18)住居址出土土器実測図(1:4)

14号住居址

[遺構] (38図) 調査地の中央西に位置し、15号・22号住居址、59号土坑、11号溝址と重複関係にあり、東壁は確認されない。形態は方形を呈し、南北3.9m・東西3.75mの規模になる。主軸方向はほぼ南北を指す。掘り込みは浅く8cm程度で、床面は平坦で軟弱である。北壁にそって深さ15cmの溝状の落込みがみられ、中央に焼土及び角礫が残存している。カマド構築の場所を示すと共にこの遺構が住居址の付属施設であることを教える。住居址内の小穴は1次面から掘り込まれている。

[遺物] (39図) 出土量は少ない。器種には土師器壺(4)・内黒壺(1~3)・甕(6~8)、

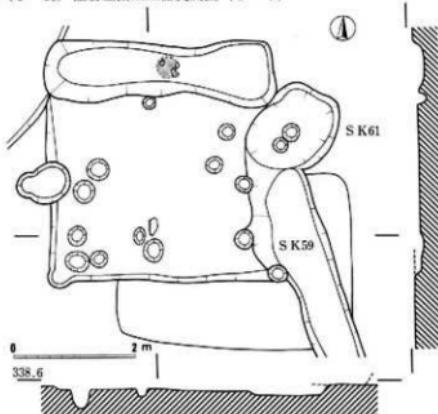


図38 14号(上)・22号(下)住居址、59号・61号土坑実測図(1:80)

須恵器壺・甌、灰釉陶器碗、縁釉陶器碗（5）、棒状鉄製品がある。2の底部はヘラケズリが施されるが、1は糸切り痕を残す。6・7の口縁部は内湾し、7の端部が内傾し丸く仕上げられる。8の体部外面はナデ様のタテヘラケズリで雑に整形され、内面はヨコナデで黒色を呈する。

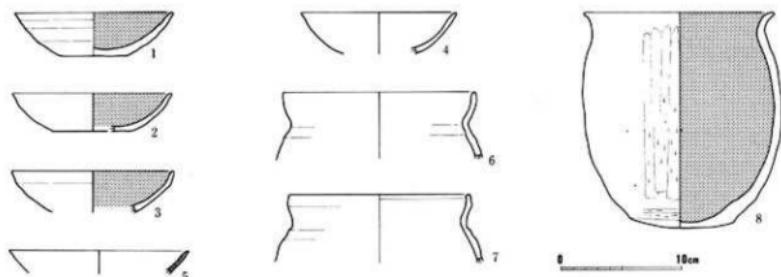
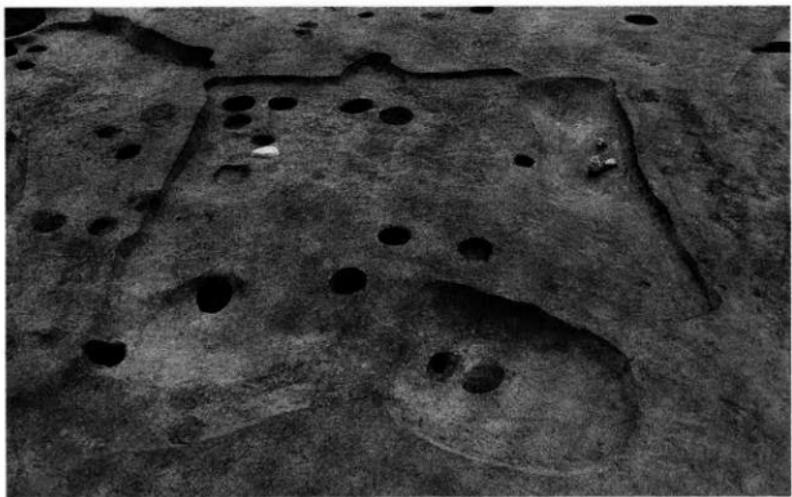


図39 14号住居址出土土器実測図（1：4）



IV-14 14号住居址

15号住居址

【遺構】（40図） 調査地の北西に位置し、14号住居址・2号井戸址と重複関係にあり、最も古い遺構である。基本形態は方形を呈するものと思われるが、東壁は丸味を帯びる。規模は南北4.7m・東西最大幅4.7mで、北壁に対する南北軸はN32°W方向を指す。検出面からの掘り込みは10cmで、床面は平坦で軟弱である。カマドの所在は不明である。

【遺物】 出土量は少なく、小破片で復元実測可能なものはない。器種には土師器壺、須恵器壺・四耳壺、縁釉陶器碗がある。

16号住居址

〔遺構〕(41図) 調査地の中央西に位置し、南壁で60号土坑と重複する。形態は隅丸長方形を呈し、南北3.2m・東西2.7mを測る小形の遺構である。掘り込みは25cmと比較的深く、床面は平坦で全面堅緻である。カマドは南壁中央に構築されていたとみられ、火床が残存していた。主軸方向はS 40°Wを指す。

〔遺物〕 出土量は少なく、小破片で復元実測可能な土器片はない。器種には土師器壊・甕がある。

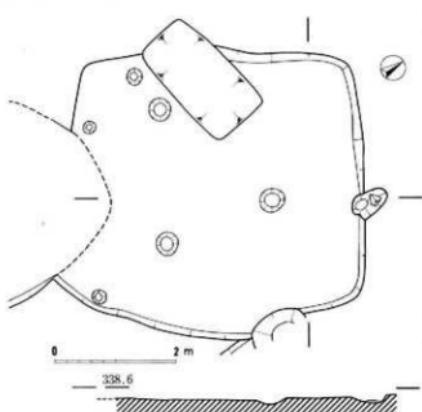


図40 15号住居址実測図 (1:80)



図41 16号住居址実測図 (1:80)



IV-15 16号住居址

18号住居址

〔遺構〕(43図) 調査地の南西に位置し、南壁が19号住居址と東壁が61号土坑・溝址と重複関係にあり、19号住居址よりも新しい。形態は長方形を呈し、南北4.4m・東西5.15mの規模になる。南壁下に全長2.4m・幅30cm・深さ8cm程の周溝状の溝が掘り込まれ19号住居址と区画する。主軸方向はN14°Wを指す。掘り込みは8cmと浅く、床面は中央付近が若干高まりをみせ、堅緻な貼床が施される。カマドは北壁中央に構築されていたものと思われ、後出の小穴周辺に焼土が残存する。住居址内に柱穴様小穴がみられるが小屋組配列は確認されない。

〔遺物〕(44図) 出土量は他の住居址に比べ最も多く出土している。器種には土師器壺(1・5・6)・内黒坏(2～4・7・8)・甕(9～11)、須恵器壺・甕、灰釉陶器壺(12)、鉄製紡錘車(66図10)がある。この他龍泉窯系青磁画花文碗片が出土しているが他の遺物と時代的に整合性がない。10および壺類の7を除き胎土に黄雲母の混入が目立つ。4の体部上半は間隙のあるヘラミガキになる。9～11はロクロによるヨコナデ整形で、10の体部上半はヘラによるヨコナデ、内外面にカキメを残す。12の体部外面は右方向への回転ヘラケズリが施される。紡錘車は鋸が著しく断面形をみいだせない。

19号住居址

〔遺構〕(43図) 18号住居址の南に重複し、南東隅付近は1次面の5号井戸址等により破壊をうける。形態は方形を呈するものと思われ、東西の規模は4.6mを測る。最大掘込み深は24cmになり、18号住居址より深い。床面は平坦ではほぼ全面が貼床され堅緻である。残存部にカマドの痕跡は認められなく、北壁での存在を予想する。南北軸線はN43°W方向を指す。

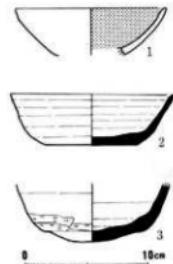


図42 19号住居址出土土器
実測図 (1:4)

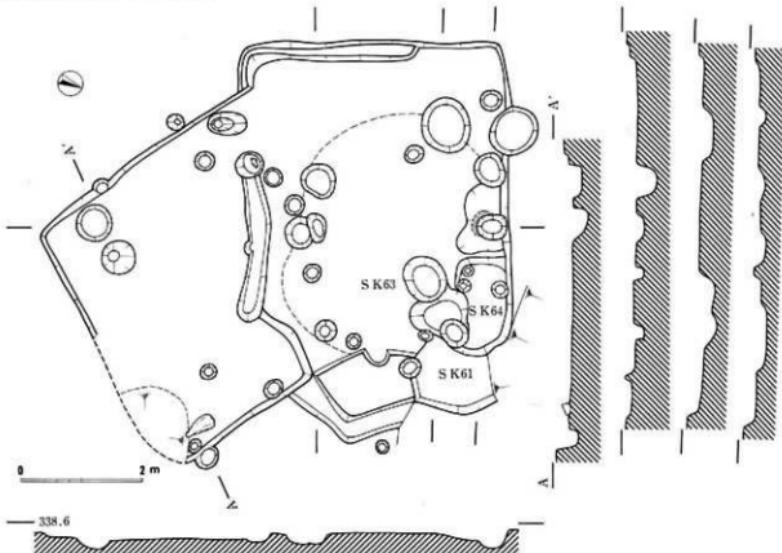


図43 18号(右)・19号(左)住居址、61号・63号・64号土坑実測図 (1:80)

【遺物】(42図) 出土量は少ない。器種には土師器坏(1)・甕、須恵器坏(2)・台付坏・甕(3)がある。2の底部外面にはロクロから切離痕のヘラオコシが認められる。3の底部は丸味を帯び、ヘラケズリ・ヘラナデで仕上げる。

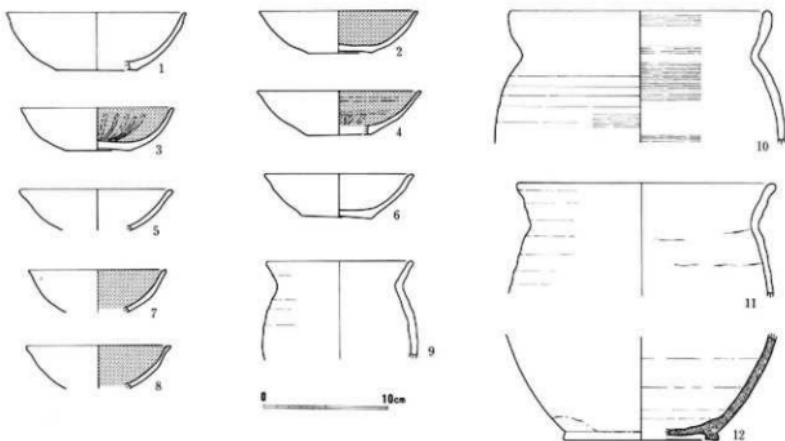


図44 18号住居址実測図(1:4)



IV-16 18号(左)・19号(右)住居址

20号住居址

【遺構】(52図) 調査地の南側に位置し・東壁は17号溝址と重複関係にあり、南壁はゴミ穴で破壊をうける。形態は方形を予想するが、規模・カマドの位置等は不明である。掘り込みは6cm~12cmを測り、軟弱で東に傾斜する。北壁に対する南北軸はN20°W方向を指す。

【遺物】(51図) 出土量は少ない。器種には土師器壺・内黒環(1~2)・甕、須恵器壺がある。1の底部はロクロから糸切離後、ヘラケズリが施される。2の底部外周にもヘラケズリがみられる。

21号住居址

【遺構】(50図) 調査地の中央東端に位置し、北壁は1号住居址と重複し、東側半分程は調査区域外にのびる。形態は方形を予想するが、規模・カマドの位置等は不明である。掘り込みは18cmを測り、床面は平坦で軟弱である。西壁の軸線はN8°W方向を指す。

【遺物】(51図) 出土量は少ない。器種には土師器壺・内黒環(3)・甕、須恵器壺・台付壺、鉄滓がある。

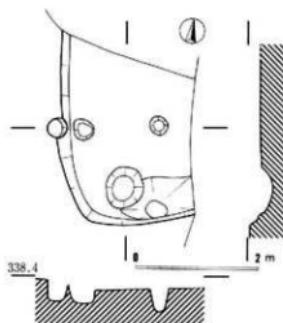


図50 21号住居址実測図 (1:80)

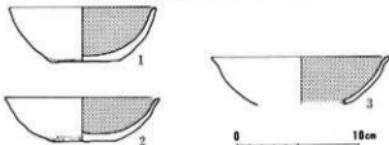


図51 20号(1・2)・21号(3)住居址
出土土器実測図 (1:4)

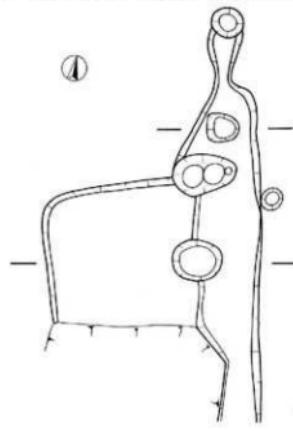


図52 20号住居址、17号溝址実測図 (1:80)

(2) 柱穴群

1次面では調査地の北側西の2号井戸址周辺、中央部の6号住居址・井戸址群間に多数の小穴が散在する。2次面でも調査地中央付近を中心に小穴が集中するが柱穴列としての遺構をみいだせない(12・13図)。

調査地の南西隅部の土坑の中に柱穴列を想定されるものがある。67号・68号・71号・73号土坑を西側の南北軸に、67号・65号土坑を北側の東西軸にあてるが、東・南辺は調査区域外にあるものと考える。南北軸がN24°W方向を指す東西2m×南北3mの掘立柱建物址を想定する。東西芯々全長4m・柱間2m・南北芯々全長5.4m・柱間1.8mの規模と推定する(53図)。

【遺物】(63図) 67号土坑から土師器壺・甕、須恵器壺(21)片が出土しているにすぎない。

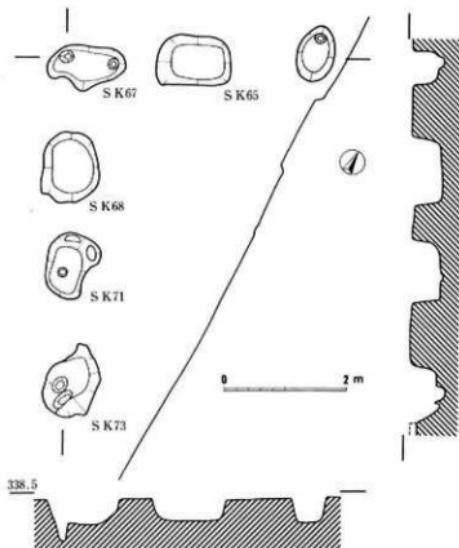


図53 掘立柱建物址実測図 (1:80)



IV-17 掘立柱建物址

(3) 井戸址

大形土坑の範囲に入る造構であるが、底面に水溜め又は水漬のためか用途に疑問をこすものの浄水施設としての曲物・桶等が埋設するもの、その痕跡のあるものを井戸址とした。すべて1次面での確認造構である。

浄水施設は井戸址底面の中央付近に埋設される。1号・4号・5号井戸址は井戸廃棄時に曲物を抜取った可能性があり、1号・5号にはその埋設痕と共に曲物残欠が認められる。2号井戸址は桶状の容器が埋設され、外縁に20cm~30cm・厚さ3cm程の板材で固定する。桶は半切形のもので深さ約30cmを測り、桶の底面は黄褐色砂質土になる。3号井戸址は井筒部を土坑状に底面まで掘下げ、曲物を中心据え、外縁を幅・深さ50cm~60cm・厚さ3cm程の1枚板で四方を囲み、漆黒色粘土をもって埋設している点他の井戸址と異なる技法である。底面は黄褐色砂質土である。井筒部は素掘りの様相を呈しているが、26号土坑(57図)に石積み造構が残存しており、他の土坑にも造築石材が投棄されていることから石積み囲いの井筒であった多能性も否定できない。また、隅丸方形を呈する12号土坑の底面に円形土坑が認められ、浄水施設埋設痕の可能性がある。

[造構]

番号	遺構図	形態	規模(m)			備考	遺物	図
			長軸	短軸	深さ			
1号	54	円形	2.50	2.42	0.62	SD3、曲物埋設痕		
2号	54	円形?	3.28	3.10	1.20	上面方形、桶枠?	(土) 羽釜(須)(灰)	64・66
3号	54	円形	2.38	2.18	1.76	SE4・SK33、板囲曲物	(土)(須)(灰)	
4号	54	円形	2.30	2.10	1.46	SE3、曲物埋設痕	青磁碗、白磁碗	
5号	54	長円形	2.48	1.90	1.66	SK32・34、曲物埋設痕	(土)(須)、珠洲片口擂鉢	

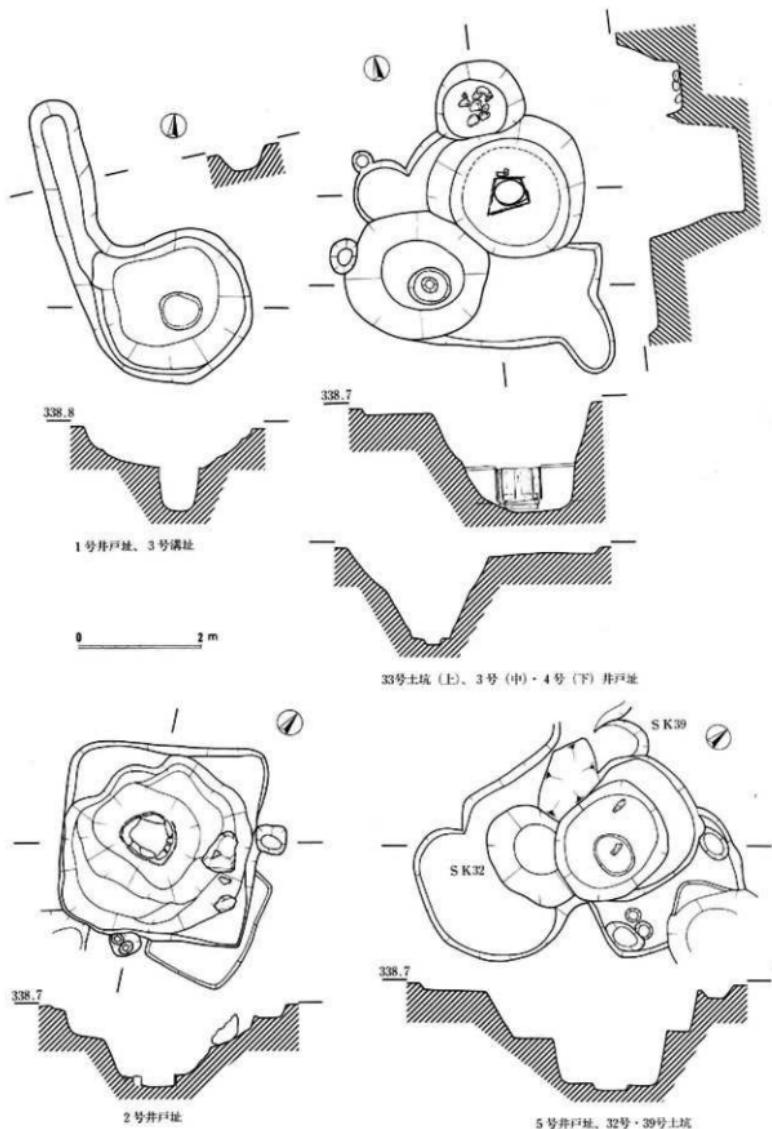


図54 井戸址（1号～5号）、土坑（33号・32号・39号）実測図（1：80）

【遺物】 遺物については土師器壺・楕・甕を（土）、須恵器壺・甕を（須）、灰釉陶器楕を（灰）、綠釉陶器楕を（綠）と表記し、遺物の欄に記載する。これらに含まれない器種のみ取り上げる。出土遺物は少量で、破片状態のものが多く、復元実測が可能なものについては実測図を提示した。4号井戸址からは龍泉窯系青磁蓮弁文碗・白磁碗が、5号井戸址からは珠洲片口擂鉢の破片が出土している。出土遺物から4号と5号は13世紀代の所産と考えられ、覆土の浄水施設の状況から他の井戸址もこれに近い時期のものと推定する。

(4) 土 坑

【造構】 平安時代末から中世の遺物が出土している土坑は、1次面に多く21号・25号・27号・31号・36号の5基が確認されている。形態をみると27号を除き円形の大形に属する土坑である。中世の遺物の出土がみられなかつたものの直径が1mを超え、深さ50cm以上の円形・不整円形または底面が円形をなす大形土坑は、1次面に11基



IV-18 1号井戸址



IV-19 2号井戸址



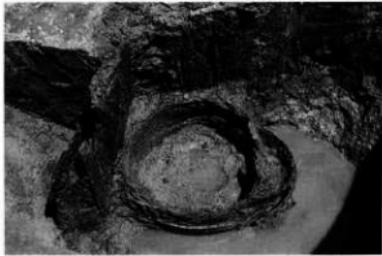
IV-20 3号(右)・4号(左)井戸址



IV-21 5号井戸址



IV-22 3号井戸址木棒



IV-23 3号井戸址曲物

あり、2次面には16基の総計27基が検出されている点注目され、中世的性格がつよく感じられる。他の土坑は平安時代期のものであろう。35号土坑は中世の36号土坑の埋没後に掘り込まれた大形狀の埋納墓と推定されるが下肢部のみ残存していた。

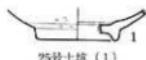
番号	遺構図	形態	規模(m)			長軸方向	備考	遺物	団
			長軸	短軸	深さ				
1号	16	円形	1.10		0.56		SB2、平底	(土) (須) (灰)	
2号	56	長方形	1.70	0.85	0.46	N67°E	複合土坑、平底		
3号	56	円形	1.70		0.72		SB3・12、平底	(土) (須) (灰) 広口壺	
4号	56	不整円形	0.68	0.61	0.67		平底		
5号	56	隅丸長方形	1.77	0.83	0.32	N66°E	鍋底	(土) (須)	
6号	56	不整円形	0.91	0.76	0.44		複合土坑、鍋底	(土) (須)	
7号	16	梢円形	1.02	0.98	0.80	東西	SB2、平底		
8号	56	隅丸長方形		0.70	0.32	東西	平底	弦生壺、(土) (須)	62
9号	56	隅丸方形	0.90	0.95	0.50	N59°E	鍋底		
10号	56	不整円形	1.19	1.06	0.86		平底	(土) (須)	
11号	16	方形?		0.84	0.73	N73°E	SB2、平底	(土) (須)	
12号	21	隅丸方形	1.45		1.16	N10°W	平底、円形土坑	(土) (須) (灰)	
13号	56	不整方形	1.32		0.46	N45°E	SE2、鍋底	(土) (須)	
14号	56	隅丸長方形	2.80	0.97	0.23	東西	SB6、平底	(土) (須) (灰) 置(縁)	
15号	56	不整梢円形	2.25	1.29	0.18	N30°E	平底、小穴		62
16号	56	不整円形	1.33	1.21	0.72		鍋底、角礫		
17号	56	不整円形	1.66		0.95		鍋底、角礫		
18号	56	隅丸方形	2.03	1.95	0.28	東西	SD4、平底	(土) (須)	62
19号	56	円形	1.24		0.35		平底	(土)	
20号	57	不整円形	1.53	1.38	0.18		平底	(土) (須)	
21号	57	不整円形	1.83		0.85		複合土坑、鍋底	(土) (須) 白磁梅、布目瓦	62
22号	57	円形	1.10	1.00	0.92		SZ4、平底	(土) (須) 四耳壺(縁)	62
23号	12	不整円形	0.82	0.76	0.64		SZ2、鍋底	(須) 鉄錐	66
24号	57	不整円形	1.32	1.05	0.76	南北	平底		
25号	57	円形	2.57		1.23		角礫、鍋底	(土) (須) 白磁碗・皿、鉄津	
26号	57	不整円形	1.56	1.37	0.86		石積み、鍋底	(土) (須) (灰) 盆	62
27号	12	方形	2.20	1.55	0.15	N10°E	平底	(土) (須) 青磁	
28号	57	不整長方形	3.20	1.85	0.17	東西	SK39、平底	(土) (須) (灰) 鉄棒	62
29号	57	梢円形	1.15	0.95	0.70	南北	鍋底		
30号	57	長方形	1.40	1.15	0.12	N10°W	平底凹凸	(土)、磁石	63・66
31号	57	不整円形	1.77	1.46	1.45		鍋底	(土) (須) (縁) 白磁碗	
32号	54	梢円形	1.78	1.30	0.87	東西	SE5、平底		
33号	54	不整円形	1.45		0.96		SE3、平底、礫	(土)	63
34号	58	円形	1.35	1.30	0.86		複合土坑、礫、平底	(土) (須) (灰) 白磁碗	

番号	遺構図	形態	規 模 (m)			長軸方向	備 考	遺 物	団
			長軸	短軸	深さ				
35号	58	隅九方形?	1.65		0.28	N50°E	大型獸骨、鍋底	刀子	
36号	58	不整円形	3.26	2.75	1.25		鍋底	(土)(須)、土器皿、青磁碗、白磁碗、珠洲捲鉢、山茶碗、布目瓦	
37号	58	長方形	1.10	0.82	0.29	N80°E	平底、焼土塊化		
38号	29	不整円形	0.92	0.71	0.23		平底		
39号	54	円形	0.94	0.83	0.33		平底	弥生壺、(土)	63
40号	58	円形	1.15	1.05	0.58		平底	(土)(須)、鐵津	
41号	58	不整円形	1.34	1.12	0.70		平底	(土)(須)	
42号	58	不整円形	0.93	0.80	0.34		鍋底		
43号	58	円形	1.76		0.54		鍋底	(土)(須)	
44号	58	隅九長方形	0.99	0.64	0.30	東西		鍋底	
45号	58	隅九方形	0.62	0.58	0.29	N11°W	平底		
46号	58	隅九長方形	0.89	0.71	0.25	N27°E	傾斜	(土)(須)	
47号	58	不整方形	2.00	1.80	0.75	N47°W	平底	(土)(須)四耳壺	
48号	58	不整形	1.85		0.32	N72°E	複合土坑、平底	(土)把手(須)蓋	
49号	58	不整形	3.00	2.48	0.14	東西	複合土坑、平底	(土)(須)(灰)皿	63
50号	59	溝状	4.30	1.50	0.28	N70°E	平底	(土)(須)	
51号	58	不整円形	1.93	1.57	0.58		鍋底	(土)(須)(灰)	
52号	59	不整円形	1.29		0.52		SK53、傾斜	(土)(須)(灰)	
53号	59	不整円形	1.32		0.71		複合土坑、鍋底		
54号	59	不整方形	2.10	1.64	0.22	N65°E	複合土坑、鍋底	(土)(須)	
55号	59	不整円形	2.11	1.83	0.85		鍋底	(土)高盤(須)四耳壺 (灰)	63
56号	59	円形	1.50		0.63		鍋底	(土)(須)把手	
57号	59	円形	1.88	1.70	0.69		鍋底	(土)(須)高盤	
58号	59	円形	1.53		0.72		SD 7、鍋底	(土)(灰)、鍛石小玉	66
59号	38	隅九方形?	1.45	1.05	0.12	N29°E	SB14、平底	(土)(須)	
60号	59	円形	1.21	1.04	0.58		平底		
61号	38	隅九方形?		1.25	0.25		SB14、鍋底	(土)(須)高盤	63
62号	59	不整長方形	1.75	0.81	0.34		平底	(土)(須)	
63号	36	不整円形	0.94	0.79	0.32		SB18、鍋底		
64号	36	隅九長方形	1.71	0.91	0.95	N75°E	SB18、平底	(灰)	
65号	60	隅九長方形	1.24	0.83	0.40	N61°E	SK70、平底、柱穴		
66号	59	不整形	3.65	2.44	0.12	南北	SK67、平底	(土)(須)	
67号	59	不整椭円形	1.28	0.74	0.48	N55°E	SK66、傾斜、柱穴	(土)(須)	
68号	59	不整円形	1.14	0.90	0.43	N31°W	平底、柱穴		
69号	60	椭円形?	2.52		0.12	N33°W	SD10、平底	(土)(須)	63
70号	60	溝状		1.50	0.22	東西	SK65、平底	(土)(須)	

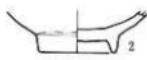
番号	遺構図	形態	規模(m)			長軸方向	備考	遺物	図
			長軸	短軸	深さ				
71号	60	隅丸長方形	0.75	0.48	0.45	N48°E	鍋底、柱穴		
72号	60	楕円形	0.75	0.53	0.40	N47°W	平底		
73号	60	不整円形	1.23	0.93	0.41		鍋底、柱穴		
74号	60	隅丸方形?	1.06		0.18	N64°W	鍋底	(須)	
75号	60	円形	0.93		0.49		複合土坑、平底	(土) (須)	
76号	59	円形	0.94		0.30		SK66、平底		
77号	59	不整円形	1.24	1.19	0.70		SK66、鍋底	(土) (須)	
78号	60	不整円形	1.83		0.85		複合土坑、傾斜	(土) (須) (灰)	
79号	60	不整台形	2.28	1.72	0.58	N79°E	SK80、平底	(土) (須)、砥石	66
80号	60	楕円形?	1.80		0.60	東西	SK79、平底	(須)	
81号	60	不整円形	0.95	0.80	0.54		SK82、鍋底		
82号	60	不整楕円形	1.16	0.78	0.28	N42°W	SK81、鍋底		
84号	60	楕円形	0.80	0.69	0.52	東西	複合土坑、鍋底		
85号	60	隅丸方形	0.78	0.68	0.18	南北	平底		
86号	60	溝状不整形	2.44	1.82	0.35	N10°W	SK87、平底		
87号	60	円形・溝状		2.15	0.44	東西	SK86、鍋底	弥生壺、(土) (須) 盖	

【遺物】出土遺物は少量で、破片状態のものが多く、復元実測が可能なものについては実測図を提示した。遺物について土師器環・輪・甕を(土)、須恵器環・甕を(須)、灰釉陶器柄を(灰)、綠釉陶器柄を(緑)と表記し、遺物の間に記載する。これらに含まれない器種のみ遺構表中に取り上げる。

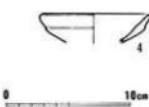
土器類の中で注目されるのは21号土坑から出土した浅鉢(62図6)がある。口縁部が外反し、頸部との境が有段棱線化し、外面には擬円線文系の条線が巡る。体部は丸味を帯びて取縮する。体部の内外面共にヨコヘラミガキが施される。弥生時代終末期の北陸系の土器と考えられる。26号土坑から出土している灰釉陶器段皿の段以下底部は黒色を呈しており転用碗と考えられる。布目瓦か21号・69号土坑から出土している。



25号土坑(1)



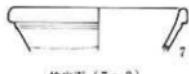
34号土坑(2)



0 10cm



36号土坑(3~6)



検出面(7~9)



9

図55 土坑、検出面出土中世土器・磁器実測図(1:4)

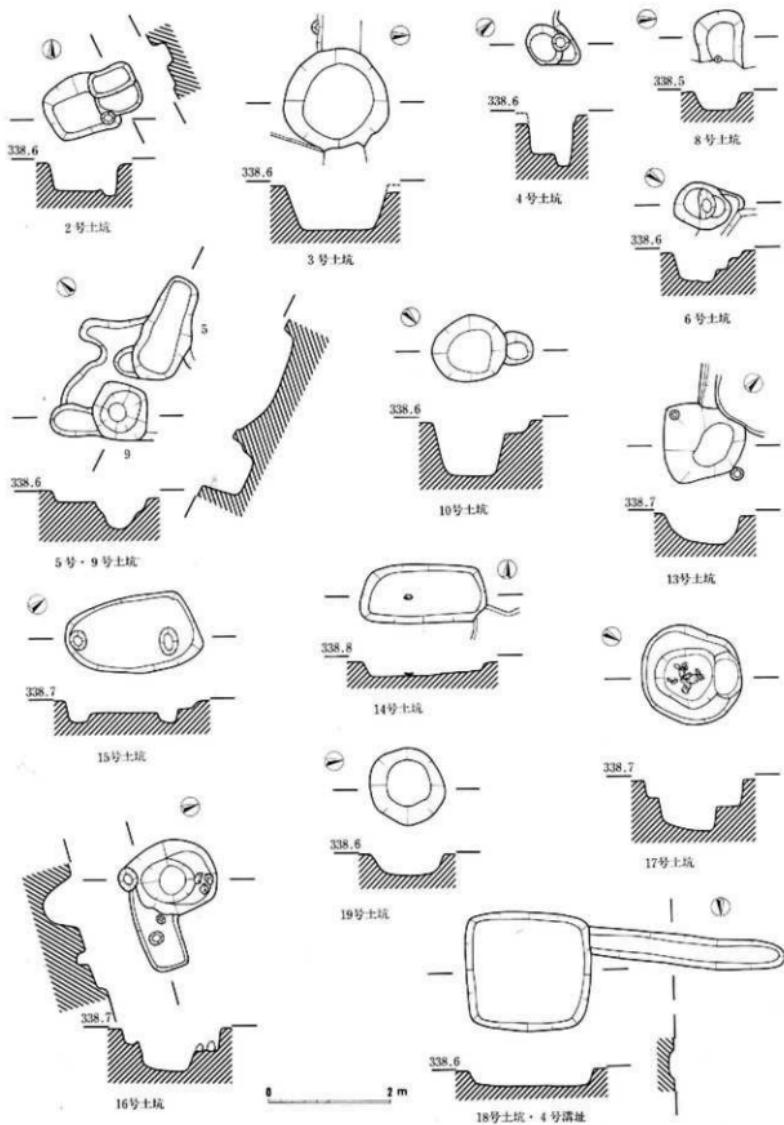


图56 2号~10号·13号~19号土坑、4号溝址実測図 (1:80)

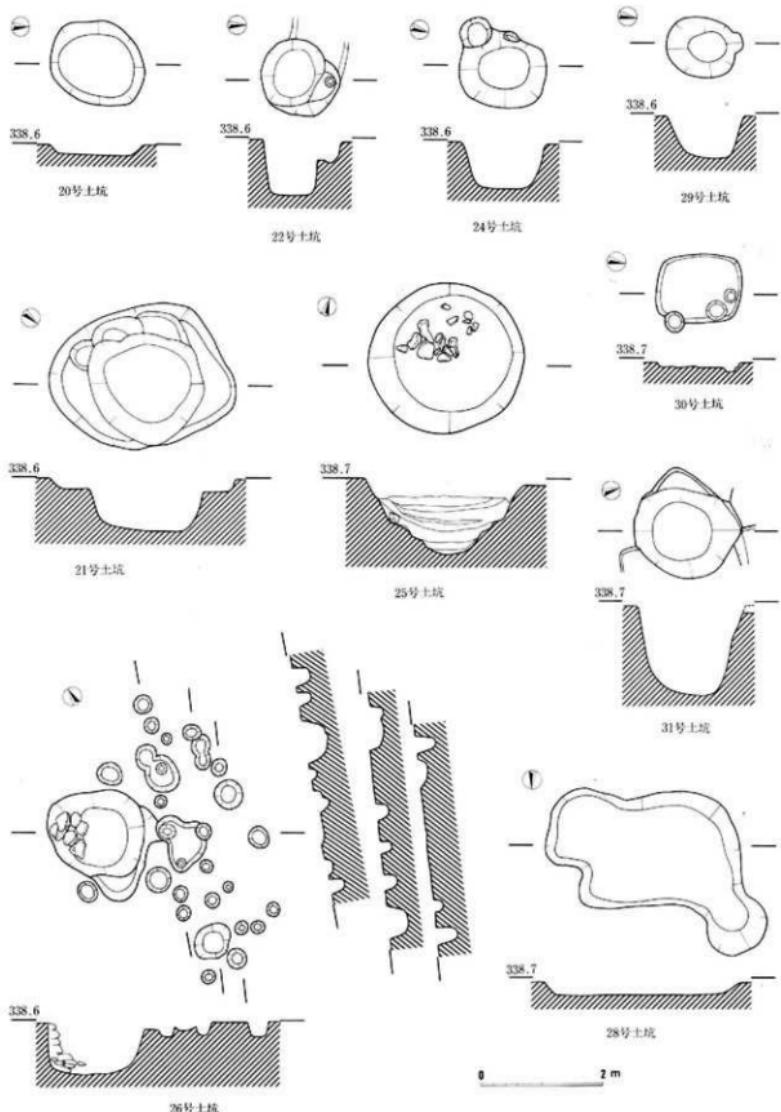


图57 20号~22号·24号~26号·28号~31号土坑实测图 (1:80)

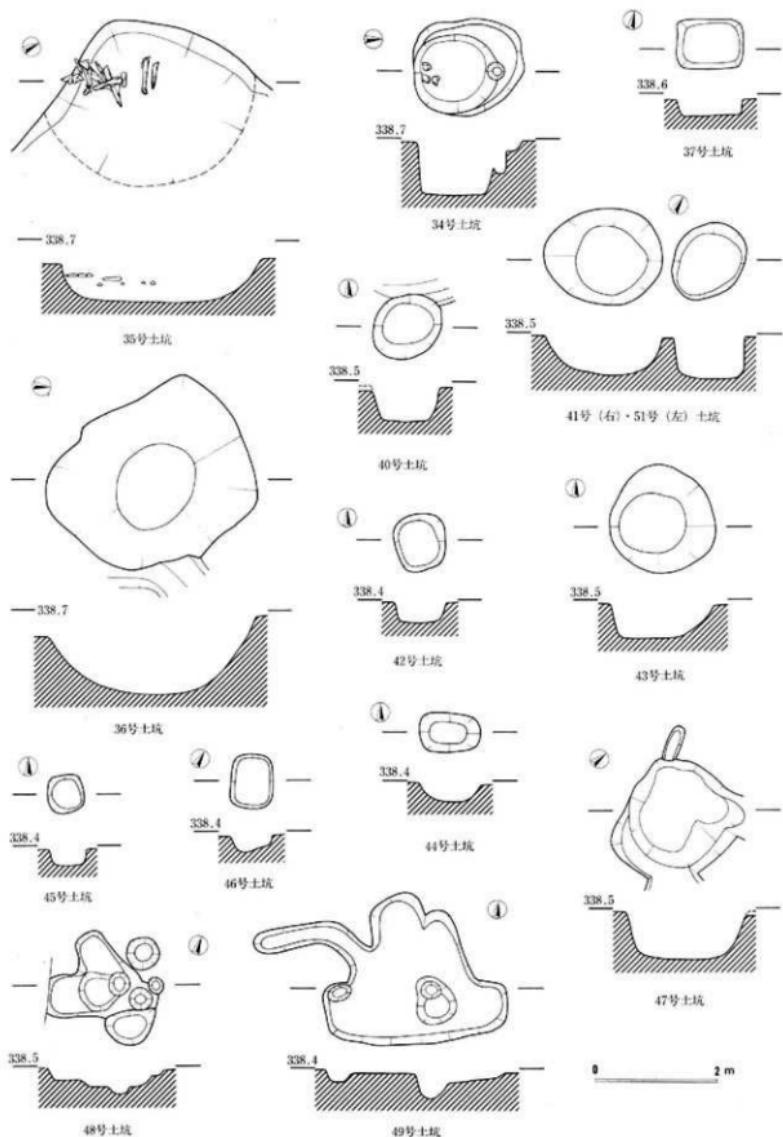


图58 34号~37号·40号~49号·51号土坑实测图 (1:80)

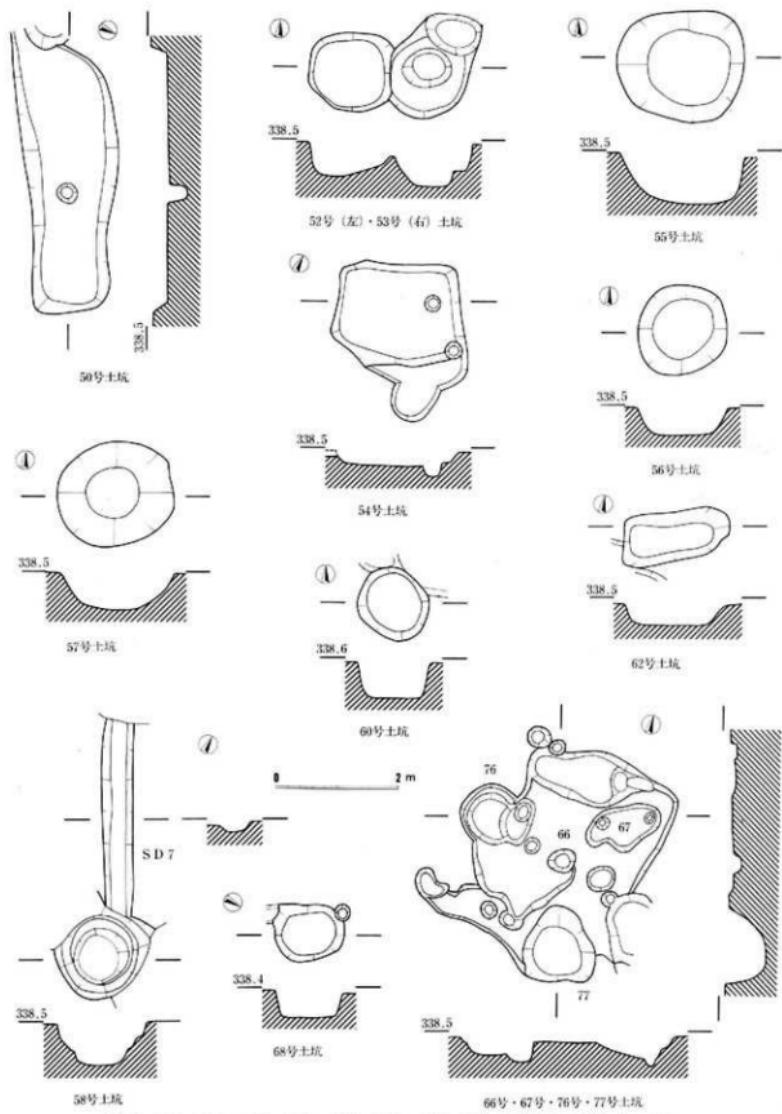


图59 50号·52号~58号·60号·62号·66号~68号·76号·77号土坑实测图 (1:80)

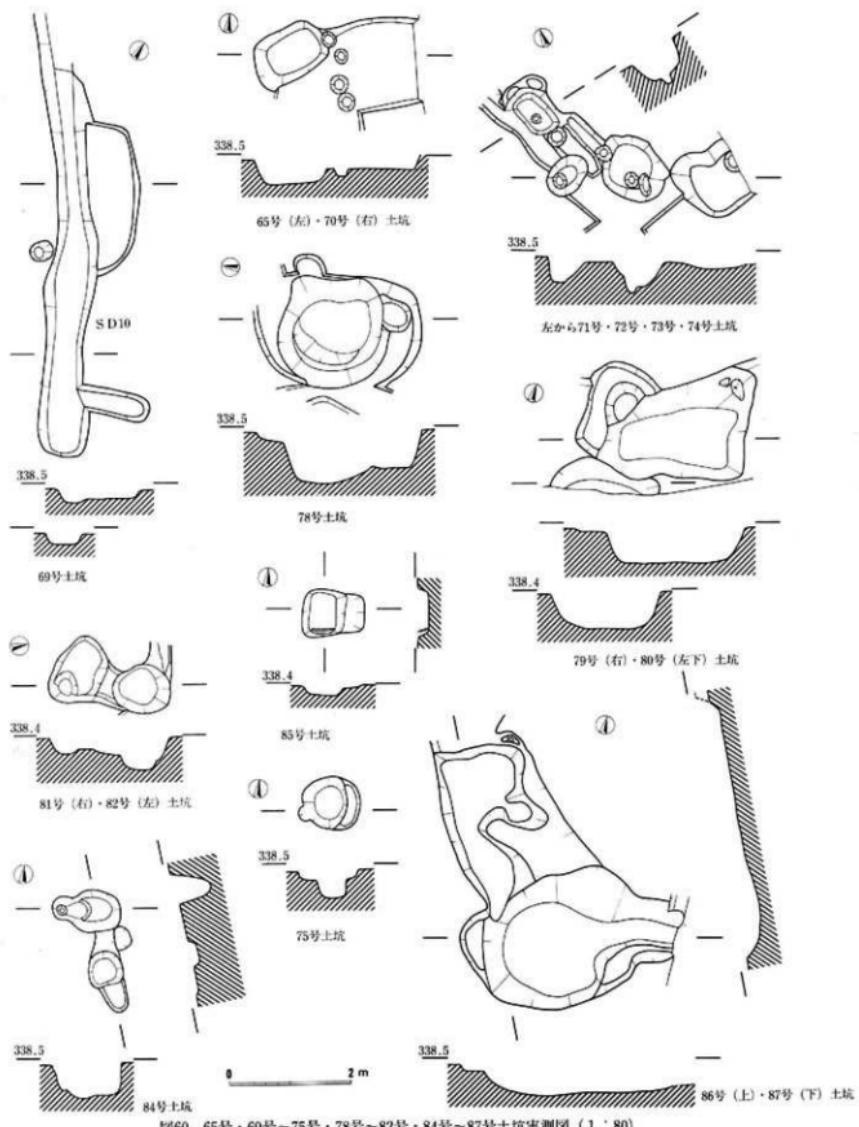


图60 65号・69号～75号・78号～82号・84号～87号土坑实测图 (1:80)

中世的遺物を抽出する。手捏ね土器皿（カワラケ）は36号土坑にみられ口縁部と体部の境が有段になり、口縁部はヨコナデが施される。山茶碗は東濃系白土原窯式と推定され、36号土坑から1点のみ出土している。珠洲系の焼物は調査地から5片確認され、すべて描録である。土坑からは36号に2片みられ、10本歯の箋状工具により間隔をおいて縦に描目を刻む。白磁は4基の土坑から出土している。21号土坑は口縁端部が大きな玉縁になるIV類碗である。25号土坑からは3片出土しており、2片は淡褐色系の釉色で小さな玉縁口縁になると推定されるII類碗、もう1片は白色釉で口縁部が外反するV類碗である。31号土坑からは大きな玉縁口縁部片、34号土坑からは断面が三角形のケズリグシ高台を有する底部片が出土しており、共にV類碗である。青磁片は2基の土坑から出土している。27号土坑からは龍泉窯系蓮弁文碗、36号土坑からは内面に彌齒刺突文がある同安窯系碗・龍泉窯系碗がある。

* [白磁碗分類図] 原 明芳「吉田川西遺跡における食器の変容」『中央自動車道長野線埋蔵文化財発掘調査報告書3 吉田川西遺跡』(朝長野県埋蔵文化財センター 平成3年)

(5) 溝 址

1次面で5条、2次面で15条の遺構に番号を付したが、更に小規模の溝状遺構が存在する。溝址の用途をあえて推定すると、3号溝址と1号井戸址、1号土坑と63号土坑、7号溝址と58号土坑、8号溝址と57号土坑、12号溝址と36号土坑、14号・20号溝址と79号土坑等にみられる大形の土坑状遺構をもって終結する溝址の存在は、集水の施設とも考えられる。14号住居址の東壁に重複する11号溝址は南方向に傾斜し、13号住居址の南壁隅に接する9号溝址においても水溜まり用の落込みがみられ排

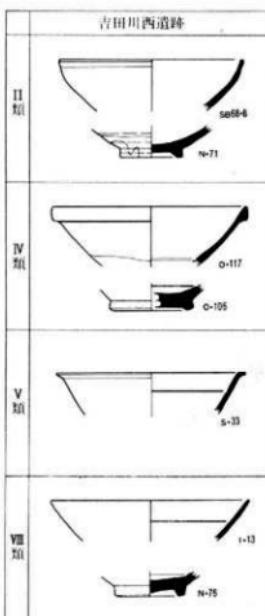


図61 白磁碗分類図 (1:4)

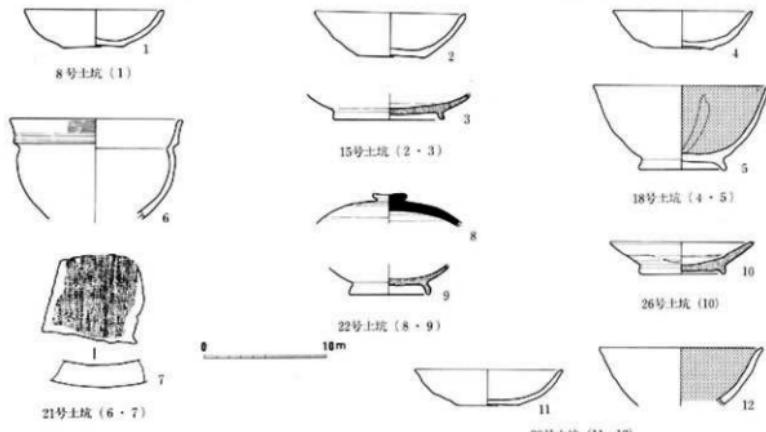


図62 土坑出土遺物実測図 (1:4)

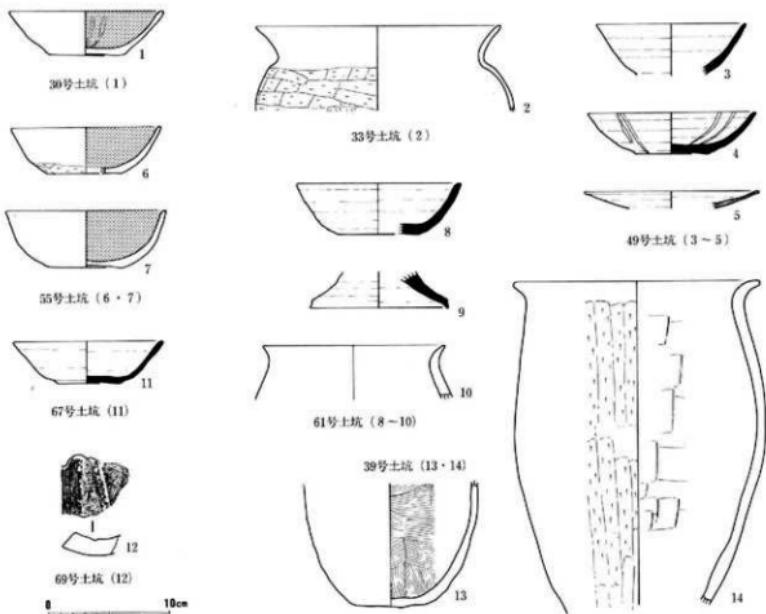


图63 土坑出土遗物实测图 (1 : 4)



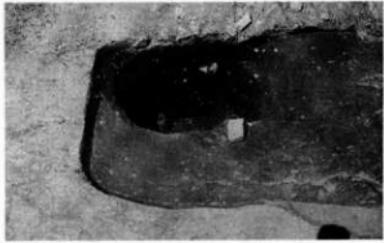
IV-24 1号(右)·2号(左)土坑



IV-25 3号土坑



IV-26 4号·5号·6号·8号·9号土坑



IV-27 12号土坑



IV-28 13号(左)・16号(右)土坑



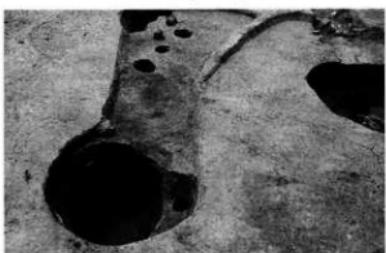
IV-29 17号土坑



IV-30 18号～21号土坑



IV-31 21号土坑



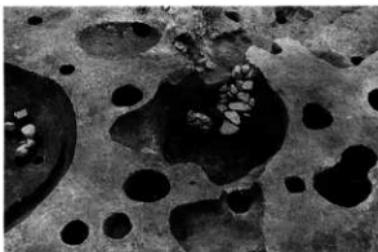
IV-32 22号土坑



IV-33 24号土坑



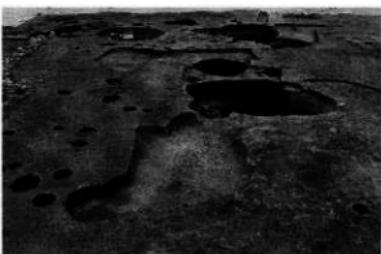
IV-34 25号土坑



IV-35 26号土坑



IV-36 27号（上）·31号（下）土坑



IV-37 28号土坑



IV-38 29号土坑



IV-39 34号土坑



IV-40 35号土坑獸骨



IV-41 35号（下）·36号（上）土坑



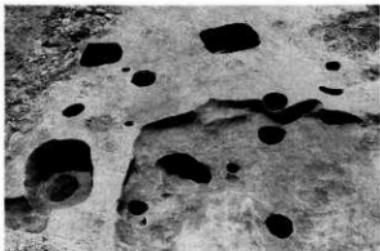
IV-42 37号土坑



IV-43 40号（上）·41号（左）·51号（右）土坑



IV-44 43号土坑



IV-45 44号（左下）・45号（上左）・46号（上右）土坑



IV-46 52号（左）・53号（右）土坑



IV-47 55号土坑



IV-48 56号（左）・57号（右）土坑



IV-49 下から55号・56号・57号土坑



IV-50
78号（上）・79号（下）
土坑

水の便があるものの、10号溝址は住居址方向に勾配があり、排水の用途は考えられない。1号と12号溝址は同方向に走り、同遺構の可能性もある。

[遺構]

番号	遺構図	形態	規 模			長軸方向	重複遺構等	遺 物	図
			確認長(m)	幅 (m)	深さ(cm)				
1号	13	直線	15.0超	0.5 ~ 0.9	14~18	N43°E	SB13、南低	(土) (須) 蓋	64
2号	13	不明	4.5超		10~12	南北	SB 5	(土) 鉢 (須) 墨書き、砥石	64
3号	12	直線	4.6	0.6 ~ 0.9	12~16	N19°W	SE1	(土) (須) (灰) 小瓶・段皿	64
4号	56	直線	2.7	0.4	8~12	N80°W	SK18	(土) (須)	
5号	12	直線	8.5	0.3 ~ 0.65	12~14	N34°E	SB10	(土) (須)	
6号	13	直線	5.9	0.5 ~ 0.55	6~18	N72°E	単独	(土) (須)	
7号	13	直線	7.5	0.5 ~ 0.6	10~13	N22°W	SK58		
8号	13	曲線	5.0超	0.5 ~ 0.9	19~23	南北	SK57	(土)	
9号	13	直線	13.5超	0.85~1.45	15~49	N10°W	SB13・SD15	(土) (須)	
10号	13	直線	10.0	0.5 ~ 0.85	16~22	N19°W	SB13・SK69		
11号	13	直線	12.5超	0.65~0.8	10~22	N20°W	SB14・SD12		
12号	13	直線	17.0	1.05~1.2	10~20	N40°E	SK36・SD11	(土) (須)	
13号	13	直線	4.0	0.8 ~ 0.9	16~20	N29°W	SK70	(土) (須)	
14号	13	直線	6.0	0.3 ~ 0.5	10~15	N34°W	SK79		
15号	13	直線	9.0	0.35~0.8	18~25	南北	SD 9	(土) (須)	
16号	13	直線	6.0	0.2 ~ 0.3	6~ 8	N23°W	単独		
17号	52	直線	8.5超	0.6 ~ 1.2	16~26	N10°W	SB20	(土) (須)	
18号	13	直線	3.0	7.5	30	N72°E	単独		
19号	13	直線	3.0超	0.4 ~ 0.85	8~15	N72°E	単独		
20号	13	曲線	不明	0.4 ~ 0.6	16~20		SK74・SK78		



IV-51 12号溝址



IV-52 南東隅遺構群

[遺物] 各溝址から出土遺物は少量で、小破片にすぎず、それも平安時代に比定されるもので、中世の遺物は確認されない。

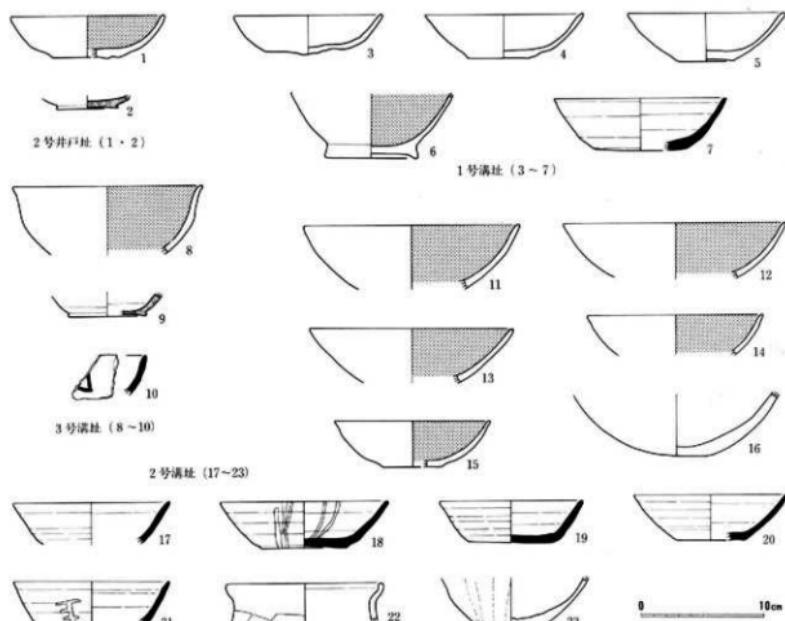


図64 井戸址・溝址出土土器実測図 (1 : 4)

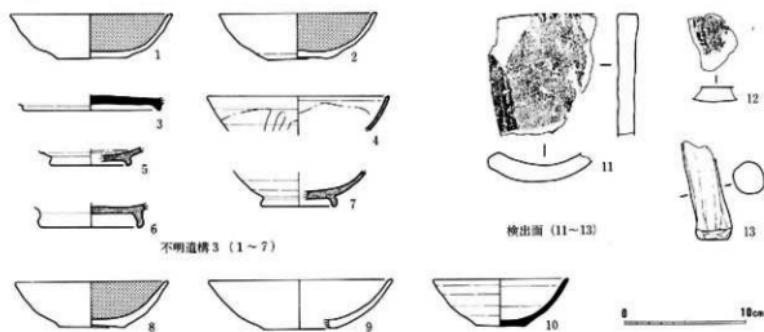


図65 不明遺構・検出土土器実測図 (1 : 4)

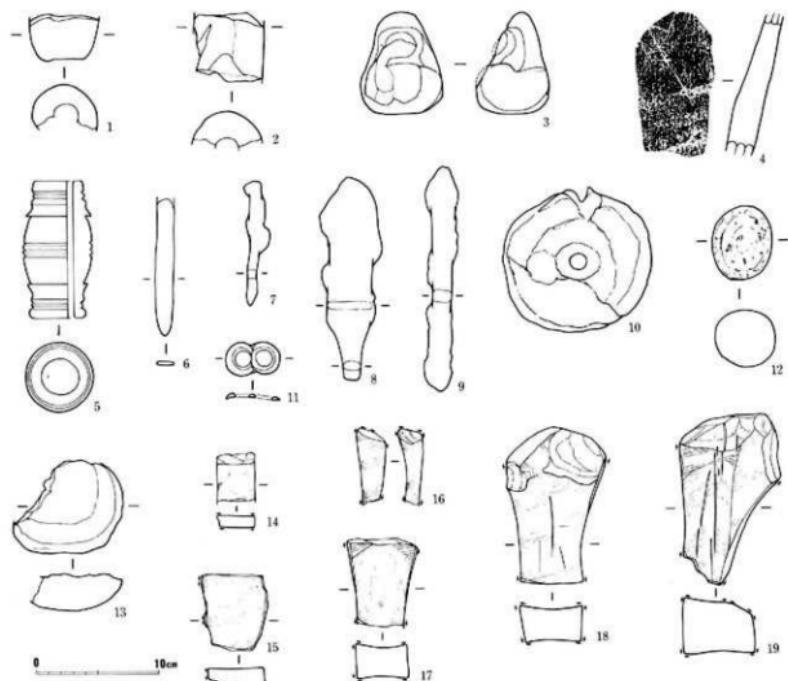


図66 土・鹿角・金属・石製品実測図 (1:2、磁石1:4)

遺物観察表 (1)

団番号	番号	種別	器種	法量(cm)			遺存	成形・調整等	備考
				口径	底径	器高			
1号住居址									
15	1	土師	杯	13.6			1/6	ロクロヨコナデ	床
	2	"	"	12.8	3.3	5.1	1/3	"・内油煙痕、糸切り	"・灯明皿
3	黒色	"	11.5	4.2	5.2	1/4	"・内黒・十字暗文、糸切り、黄雲母・石英		
4	"	碗	11.2 (4.0)	4.2	1/8	ヘラナデ・内黒・ヘラミガキ・糸切り			
5	土師	杯	13.8			1/4	ロクロヨコナデ・ヘラミガキ・糸切り		
6	"	"	13.2			1/8	"・"・"	カマド	
7	黒色	"	13.9	3.8	4.1	完	"・内黒・ヘラミガキ・ヘラケズリ	"	
8	"	碗	14.2			1/3	"・"・"・糸切り		
9	灰釉	皿	13.3			1/6	"・白湯釉・胎土白灰色	カマド	
10	土師	甕	20.2			1/8	体部タテヘラナデ・内ナデ・黄雲母・石英・口縁面取		

遺物観察表（2）

団番号	番号	種別	器種	法量(cm)			遺存	成形・調整等	備考
				口径	底径	器高			
2号住居址									
18	1	土師	壺	12.9	4.9	6.0	2/3	ヘラナデ・底ヘラナデ	床
	2	須恵	〃					ヘラケズリ・×印線刻	〃
	3	土師	甕	23.4			1/6	体部タテヘラナデ・内カキメ	〃
3号住居址									
19	1	須恵	蓋				ママ	擬宝珠ツマミ・回転ヘラケズリ	
	2	土師	壺	14.8			1/6	ロクロヨコナデ	床
	3	〃	〃	10.8	2.9	4.8	完	〃・糸切り	
	4	〃	〃	15.5	4.0	5.5	1/2	〃・〃	床
	5	灰釉	椀			8.2	ママ	〃・タテヘラナデ・回転ヘラケズリ・重焼底	
4号住居址									
15	1	土師	壺	9.0	3.2	3.0	1/4	ロクロヨコナデ・糸切り	床
	2	〃	〃	9.8	2.5	3.5	1/4	〃・〃	〃
	3	黒色	椀			6.5	ママ	〃・内黒・ヘラミガキ・糸切り	〃
	4	〃	〃	14.2				〃・〃・〃・〃	〃
	5	〃	〃	13.4				〃・〃・〃・黄雲母	〃
7号住居址									
25	1	須恵	壺	12.3	3.6	5.9	1/6	ロクロ・糸切り	床
	2	土師	鉢			7.0	2/3	ロクロヨコナデ・内黒・ヘラミガキ・底ヘラケズリ	〃
8号住居址									
28	1	須恵	壺	14.0			1/6	ロクロ	
	2	〃	〃	12.4	3.7	3.9	1/6	〃・糸切り	床
	3	土師	甕	9.2	8.6	6.5	1/6	ヨコナデ・内ナデ・ヨコナデ・底ヘラナデ	〃
9号住居址									
15	1	黒色	壺	12.5			1/6	ロクロヨコナデ・内黒・ヘラミガキ・石英	床
	2	須恵	蓋	9.9	2.6	—	完	ロクロ・回転ヘラケズリ・自然釉	
	3	〃	壺	12.7	3.5	5.6	1/3	ロクロ・糸切り・灰白色	床
	4	〃	〃	13.0	4.0	7.2	2/3	〃・糸切り・白灰色・火捺	〃
	5	〃	〃	12.6	3.9	6.3	完	〃・〃・灰白色	〃
	6	〃	〃	13.8	4.1	6.2	1/4	〃・〃	〃
	7	〃	〃	11.0	4.0	6.6	底ママ	〃・〃・白灰色	〃
	8	須恵	壺	13.7	4.4	8.0	1/4	ロクロ・糸切り・灰白色	〃
	9	土師	甕	16.7			1/6	体部タテヘラナデ・内ナデ	〃
10号住居址									
32	1	須恵	杯	12.7	4.1	6.8	1/3	ロクロ・糸切り・灰白色	床
	2	〃	高台壺	15.4	5.5	10.2	1/4	〃・ヘラケズリ	〃
	3	土師	甕	17.8			1/3	体部タテヘラケズリ・内ヨコナデ	〃

遺物観察表(3)

国番号	番号	種別	器種	法量(cm)			遺存	成形・調整等	備考
				口径	底径	器高			
32	4	土師	甕	10.7			1/8	ロクロヨコナデ・内ヨコナデ	床
	5	〃	〃	21.2			1/6	〃・〃・黄雲母	〃
	6	須恵	蓋				ママ	同心円刻み	

12号住居址

35	1	土師	杯	12.0			1/6	ロクロヨコナデ	床
	2	〃	〃	13.5			1/6	〃・内ヘラミガキ	〃
	3	黒色	〃	14.0	4.7	6.3	3/4	〃・内黒・ヘラミガキ・底ヘラケズリ・糸切り	〃
	4	〃	〃	13.0	4.9	5.5	1/6	〃・〃・〃・糸切り	〃
	5	〃	〃	15.6			1/8	〃・〃・〃・底ヘラケズリ・石英	〃
	6	〃	〃	13.0	4.3	6.3	2/3	〃・〃・〃・糸切り	〃
	7	須恵	〃	13.8	3.6	4.0	1/6	ロクロ・糸切り	〃
	8	〃	〃	13.3	3.4	6.8	1/4	〃・〃・火拂・白灰色	〃
	9	〃	〃	12.9	3.6	6.3	2/3	〃・〃	〃
	10	〃	〃	13.1	3.7	6.8	1/4	〃・〃・火拂・白灰色	〃
	11	〃	〃	13.0	3.7	6.3	1/2	〃・〃・赤褐色	〃
	12	〃	〃	12.4	3.6	6.7	完	〃・〃・火拂・白灰色	〃
	13	〃	〃	12.4	3.2	6.7	完	〃・〃・〃・灰黄色	〃
	14	〃	高台坏	15.5			1/4	〃	
	15	〃	〃				×印縫刻		
	16	土師	甕	19.4			1/8	口縁面取嘴状・ヨコナデ	床
	17	〃	〃	17.0			1/8	ヨコナデ・ヨコナデ・石英	〃
	18	〃	〃	22.3			1/6	口縁面取・体部タテヘラケズリ・不連続カキメ	〃
	19	須恵	〃	20.6			1/6	体部タクキメ・ロクロヨコナデ	〃

13号住居址

37	1	土師	杯	12.4	3.4	5.3	1/6	ロクロヨコナデ・糸切り	上面床
	2	黒色	〃	12.6	3.1	5.3	1/6	〃・内黒・ヘラミガキ・放射状暗文・糸切り	〃
	3	土師	〃	12.7	2.7	5.9	1/3	〃・糸切り	〃
	4	〃	〃	12.7	3.0	5.6	1/4	〃	〃
	5	〃	〃	12.6	3.6	4.0	1/2	〃・糸切り	〃
	6	〃	〃	11.2	3.3	4.3	1/8	〃	〃
	7	黒色	〃	12.5	3.6	5.0	完	〃・内黒・十字暗文・ヘラミガキ	〃
	8	〃	〃			5.2	ママ	〃・〃・ヘラミガキ	〃
	9	〃	〃	12.1			1/6	〃・〃・〃	〃
	10	土師	椀			7.5	ママ	〃・糸切り	〃
	11	〃	甕	23.0		5		ヨコナデ・体部下半ヘラケズリ・ヨコナデ	〃
	12	黒色	坏	12.7				ロクロヨコナデ・内黒・雜ヘラミガキ・暗文	下面床

遺物観察表(4)

団番号	番号	種別	器種	法量(cm)			遺存	成形・調整等	備考
				口径	底径	器高			
37	13	土師	杯	12.2	3.5	5.7	1/4	ロクロヨコナデ・糸切り	下面床
	14	"	"	15.0	4.2	5.5	1/6	" · "	"
	15	"	"	11.8			1/6	"	"
	16	"	"	13.0	3.6	4.2	2/3	" · 糸切り	"
	17	黒色	皿	12.1			1/4	底部外面除きヘラミガキ・全面黒	"
	18	土師	甕	21.3			1/8	ヨコナデ・ナデ	"
14号住居址									
39	1	黒色	壺	13.0	3.6	5.1	1/4	ロクロヨコナデ・内黒・ヘラミガキ・糸切り	床
	2	"	"	13.0	3.1	6.5	1/3	" · " · " · " · ヘラケズリ	"
	3	"	"	13.2			1/4	" · " · " · "	"
	4	土師	"	12.7			1/4	" · ヘラミガキ	"
	5	緑釉	椀	14.7			1/8	" · 胎土白灰色	"
	6	土師	甕	15.8			1/6	" · ヨコナデ・黄雲母	"
	7	"	"	14.8			1/4	" · " · "	"
	8	黒色	"	15.8	17.7	8.5	3/4	体部ヘラナデ・内黒・ヨコナデ・ヘラナデ	"
17号住居址									
34	1	須恵	蓋	13.9			1/4	ロクロ・回転ヘラケズリ・自然釉	床
	2	"	壺	11.8	4.0	5.2	2/3	" · 糸切り・茶褐色	"
	3	土師	鉢	9.8	9.6	4.7	2/3	体部ヘラケズリ・ヘラナデ・ナデ・ヘラケズリ	"
18号住居址									
44	1	土師	壺	14.8	4.7	6.6	1/2	ロクロヨコナデ・糸切り・黄雲母	床
	2	黒色	"	12.9	3.5	5.2	1/6	" · 内黒・ヘラミガキ・糸切り	"
	3	"	"	12.6	3.5	5.2	1/4	" · " · " · 放射状暗文・糸切り	"
	4	"	"	13.3	3.6	5.2	1/6	" · " · " · " · " · "	"
	5	土師	"	12.6			1/4	" · ヨコナデ	"
	6	"	"	12.4	3.7	5.6	完	" · "	"
	7	黒色	"	11.2			1/4	" · 内黒・ヘラミガキ	"
	8	"	"	11.8			1/6	" · " · "	"
	9	土師	甕	12.0			1/4	" · ヨコナデ	"
	10	"	"	21.0			1/8	体部回転ヘラナデ・カキメ・黄雲母	"
	11	"	"	21.0			1/8	ロクロヨコナデ・ヨコナデ・成形痕	"
	12	灰釉	壺			12.6	ママ	体部回転ヘラケズリ・ヨコナデ・胎土白灰色	"
19号住居址									
42	1	黒色	壺	12.4			1/8	ロクロヨコナデ・内黒・ヘラミガミ	床
	2	須恵	"	12.5	4.2	7.6	2/3	ロクロ・ヘラオシ・ヘラナデ	"
	3	"	甕			8.2	ママ	ロクロヨコナデ・ヘラケズリ・ヘラナデ	"

遺物觀察表（5）

図 番 号	番 号	種別	器種	法量(cm)			遺存	成形・調整等	備考
				口徑	底径	器高			
20号住居址									
51	1	黒色	环	12.0	4.4	5.7	2/3	ロクロヨコナデ・内黒・ヘラミガミ・糸切りのち ヘラケズリ	床
	2	"	"	12.6	3.6	5.1	1/2	" · " · " · 糸切り・ヘ ラケズリ	"
21号住居址									
51	3	黒色	环	14.6			1/6	ロクロヨコナデ・内黒・ヘラミガキ	床
土坑・検出面出土中世土器・磁器									
55	1	白磁	碗			5.2	ママ	体部回転ヘラケズリ・透白褐色釉・削出高台・V 類	SK25
	2	"	"			6.3	ママ	透淡白濁釉・胎土暗白褐色	SK34
	3	土器	皿	8.2			1/6	体部有段・ヨコナデ	SK36
	4	"	"	8.9			1/6	" · " · 口縁端部凹線	"
	5	山茶楓	楓			6.4	1/4	付高台・モミ痕・糸切り・白土原1号窯式	"
	6	珠洲	擂鉢				ママ	10本齒鑿目	"
	7	白磁	碗	14.3			1/10	玉縁口縁・透白釉・胎土白色・II類	検出面
	8	珠洲	擂鉢				ママ		"
	9	須恵	甕				ママ	内外波状文	"
井戸址出土土器・瓦									
64	1	黒色	环	12.6	3.5	5.4	1/4	ロクロヨコナデ・内黒・ヘラミガミ・糸切り	SK2
	2	灰釉	皿?			5.1	ママ	高台なし・糸切り・胎土灰白色	"
土坑出土土器・瓦									
62	1	土師	环	11.8	3.2	4.6	完	ロクロヨコナデ・糸切り	SK8
	2	"	"	12.3	3.7	5.5	1/4	" · "	SK15
	3	灰釉	楓			9.0	1/4	透綠褐色釉・胎土灰白色	"
	4	土師	环	11.5	3.2	5.0	完	ロクロヨコナデ・糸切り	SK18
	5	黒色	楓	16.3	7.0	7.3	底ママ	" · 内黒・ヘラミガキ・暗文	"
	6	弥生	鉢?	14.1			1/3	有段口縁・擬凹線文・体部ヘラカガミ・北陸系	SK21
	7	瓦	丸?				ママ	布目・灰白色	"
	8	須恵	蓋				ママ	偏平ツマミ・回転ヘラケズリ	SK22
	9	緑釉	楓			6.4	2/3	胎土白褐色	"
	10	灰釉	段皿	11.8	2.7	6.9	1/4	白濁釉・胎土白褐色・糸切り	SK26
	11	土師	环	12.2	3.0	5.0	1/6	ロクロヨコナデ・糸切り・黄雲母	SK28
	12	黒色	楓	13.5			1/6	" · 内黒・ヘラミガキ	"
63	1	"	环	12.7	3.6	6.1	1/6	" · " · ヨコナデ・暗文	SK30
	2	土師	甕	19.9			ママ	体部ヘラケズリ・ヨコヘラナデ	SK33
	3	須恵	环	12.2			1/6	ロクロ・灰白色	SK49

遺物観察表(6)

図番号	番号	種別	器種	法量(cm)			遺存	成形・調整等	備考
				口径	底径	器高			
63	4	須恵	环	12.8	3.4	6.0	1/2	〃・火輝	SK49
	5	灰釉	皿	14.3			1/6	透淡緑釉・胎土白褐色	〃
	6	黒色	环	12.3	3.8	6.2	1/6	ロクロヨコナデ・内黒・ヘラミガキ・ヘラケズリ	SK55
	7	〃	〃	13.1	7.8	6.2	1/6	〃・〃・〃・〃・〃	〃
	8	須恵	〃	13.4	4.1	6.6	1/4	ロクロ・糸切り・白灰色	SK61
	9	〃	高盤			11.2	1/6	〃	〃
	10	土師	甕	14.8			1/6	体部ヘラミガキ・ヘラナデ	〃
	11	須恵	环	14.2	3.4	6.1	1/6	ロクロ・糸切り・白灰色	SK67
	12	瓦	丸				ママ	布目・白褐色	SK69
	13	土師	甕			5.9	ママ	体部ヘラケズリ・不動続カキメ	SK39
	14	〃	〃	20.2			2/3	〃・ヨコヘラナデ・ヨコナデ	〃

溝址出土土器

64	3	土師	环	12.2	3.3	6.5	2/3	ロクロヨコナデ・糸切り	SD1
	4	〃	〃	13.2	3.7	4.9	1/4	〃・〃	〃
	5	〃	〃	13.0	4.0	4.7	2/3	〃・〃・黄雲母	〃
	6	黒色	椀			7.5	底ママ	〃・内黒・ヘラミガキ・糸切り	〃
	7	須恵	环	14.2	4.3	7.3	1/3	ロクロ・ヘラナデ	〃
	8	黒色	椀	15.6			1/6	ロクロヨコナデ・内黒・ヘラミガキ	SD3
	9	灰釉	小瓶			6.2	1/4	透淡緑釉・胎土灰色・糸切り	〃
	10	須恵	环				ママ	墨書き	〃
	11	黒色	〃	17.7			1/3	ロクロヨコナデ・内黒・ヘラミガキ	SD2
	12	〃	〃	18.4			1/6	〃・〃・〃	〃
	13	〃	〃	16.7			1/6	〃・〃・〃・石英	〃
	14	〃	〃	14.5			1/4	〃・〃・〃・〃	〃
	15	〃	〃	12.6	3.8	4.8	1/4	〃・〃・糸切り	〃
	16	〃	鉢			丸底	ママ	ヘラミガキ・〃・〃	〃
	17	須恵	环	12.8			1/4	ロクロ・灰色	〃
	18	〃	〃	13.8	3.8	7.0	1/3	〃・火輝・糸切り・白灰色	〃
	19	〃	〃	11.8	3.5	7.0	2/3	〃・糸切り	〃
	20	〃	〃	12.7	3.8	5.8	1/4	〃・〃	〃
	21	〃	〃	12.8			1/8	〃・墨書き・灰白色	〃
	22	土師	甕	12.5			1/8	体部ヘラミガキ・ヨコナデ	〃
	23	〃	〃			5.4	ママ	〃・〃	〃

不明造構・検出面出土土器・瓦

65	1	黒色	环	13.3	3.7	5.6	1/6	ロクロヨコナデ・内黒・ヘラミガミ・糸切り	SZ3
	2	〃	〃	12.9	3.8	5.0	底ママ	〃・〃・ヨコナデ	〃
	3	須恵	高台环			11.1	〃	底回転ヘラケズリ	〃

遺物観察表(7)

図 番 号	番 号	種別	器種	法量(cm)			遺存	成形・調整等	備考
				口径	底径	器高			
65	4	灰釉	椀	14.9			1/3	白濁釉・胎土白灰色	SZ3
	5	"	皿		6.2	1/3	底回転ヘラケズリ・"	"	"
6	"	椀?			8.2	ママ	"	"	"
7	"	椀			6.0	1/3	"	"	"
8	黒色	环	12.5	3.8	5.4	2/3	ロクロヨコナデ・内黒・ヘラミガキ・糸切り	SZ2	
9	土師	"	15.0	4.0	5.7	1/6	"・糸切り	"	"
10	須恵	"	11.0	3.9	4.1	1/3	ロクロ・黒褐色・糸切り	"	"
11	瓦	丸				ママ	布目・茶褐色・長石	検出面	
12	"	丸?				"	"	"	"
13	土師	火鉢?		7.5		"	ヘラナデ・獸脚?	"	"

土・鹿角・金属・石製品観察表(66図)

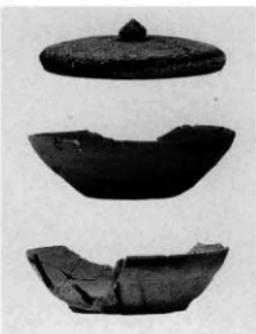
番号	名称	材質	法量(cm)・説明	遺構
1	土鍤	土製	外径2.7・内径1.0・先端残存長3.8	SZ3
2	"	"	外径(3.0)・内径(1.0)・残存長5.4	SE2
3	ダルマ状	"	最大巾3.1・高4.1・顔状部剥離・混入?	SB8
4	線刻土器	土師器甕	体部外面ヘラ先線刻・黄雲母	検出面
5	装飾品	鹿角製	最大巾2.8・内孔1.6・高5.6・金属器線刻	SB11
6	甕	"	最大巾0.7・厚0.2・残存長5.6・先端尖る	SB12
7	釘	鉄製	断面角0.4・全長5.1	SB6
8	鍼	"	平根・鍊身長方形巾(1.8)・厚0.3・茎梢円形・残存長8.3	SK23
9	"	"	尖根・鍊身長方形巾0.7・厚0.5・残存長9.2	"
10	紡錘車	"	円形径(6.0)・芯棒径0.7・錯	SB18
11	環	銅製	双環全長2.2・單環外形1.3・孔径0.7・厚0.2	SB2
12	丸玉	軽石製	研磨・梢円形長軸3.1・短軸2.5	SK58
13	鉄滓		亀の子形・残存長4.4・厚2.0	SB7
14	砥石	粘板岩製	仕上砥・長方形残存長4.2・巾4.0・厚1.0	SK79
15	"	砂岩製	荒砥・残存長6.4・巾5.2・厚1.4	検出面
16	"	流紋岩製	仕上砥・残存長6.1・巾2.2~1.4	SK30
17	"	砂岩製	荒砥・残存長7.0・巾5.5~4.9	SB17
18	"	"	"・残存長12.8・巾8.3~4.9	SB8
19	"	"	"・残存長12.5・巾8.0~4.0	SD2



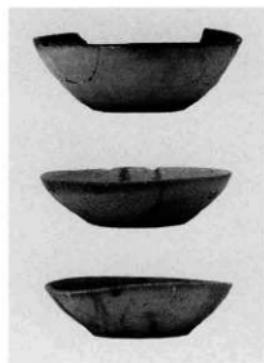
SB 2



SB 8



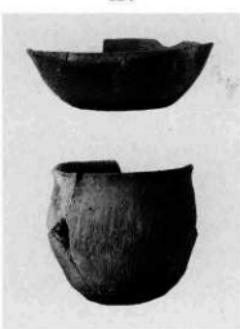
SB 9



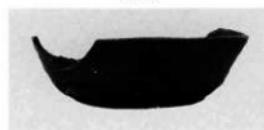
SB 12



SB 14



SB 17



SB 19



SB 18



SK 39



SK 8



SK 18

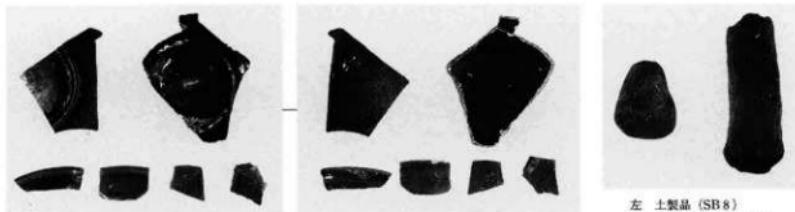


SK 21



SD 1

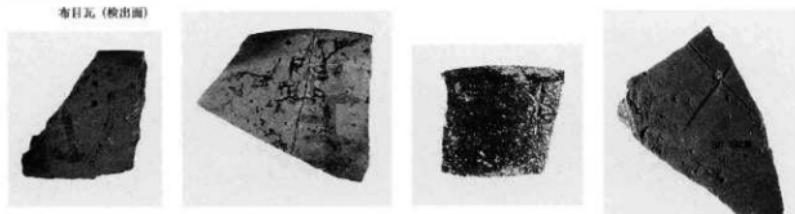
SD 2



絆形陶器



布目瓦 (SB1)

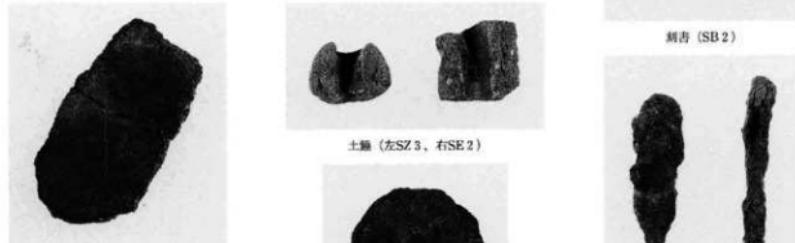


墨書 (SB 3)

墨書 (SD 2)

刻書 (SB12)

刻書 (SB 2)



土鑿 (左SB 3、右SE 2)



刻書 (SB 1)



銅鑄雙環 (SB 2)

紡錘車 (SB18)

鉄鑿 (SK23)



天祐通寶 (檢出面)

銅柄? (SK55)



砥石 (SB 8)



砥石 (SD 2)



砥石 (左・SB17) (右中・SK79)
(左中・検出面) (右・SK30)



メノウ製玉 (SK86)



鹿角製ヘラ (SB12)



鹿竹



鹿角製筒状製品 (SB11)

V 結 語

旧千曲川が形成した中洲状微高地に遺跡は展開している。遺物からみるとこの地に痕跡を残すのは弥生時代後期の箱清水式期からであるが、遺構から確認すると主体的には奈良時代からである。2次の調査所見からその内容を提示してまとめにかえたい。

ブル地点の調査では並列する2棟の掘立柱建物址と南北方向および東西方向に走る溝址が主たる遺構となり、この他に土坑・小穴を確認したにすぎない。2棟の建物址は主軸を同じくし並列関係にある。柱穴は明瞭にそれとわかるものではなく、簡易な上屋構造をもつ建物址を想定する。1号建物址の西に隣接して位置する6号～8号溝址は断絶して掘り込まれており、小穴がこの溝址に並行して存在する状況から一連のものとみてよい。遺構分布がこの溝址を境にして東西の状況が趣を異にする点に注目すれば遺構空間を区切る役割を想定する。また、9号・10号溝址は東西方向に走り、南北方向の1号溝址に接続し終結する。調査地点が北から南へ緩傾斜していることを考え合わせると、1号溝址を基幹とした計画的な溝の配置を想起させる。以上、調査で検出した各遺構からは直接人の生活を認め難い状況を呈しており、これは遺物の出土量が少ないと居住遺構が存在しない点と合致する。調査地の南側は旧千曲川流路へ落ち込む位置に面しており、遺構分布の稀薄さ等から調査地の特異性をみいだすことができ、居住域周縁部の在り方のひとつを提示している。(風間)

体育館地点の調査では22軒の住居址、5基の井戸址、86基の土坑、20条の溝址を確認している。住居址のうち6号住居址と数基の土坑が中世に比定され、他は平安時代の所産と推定される。弥生時代の遺構は確認されなく、遺物も後期の箱清水式壺の破片が2点と21号土坑から有段口縁鉢形土器が1個体出土しているにすぎない。旧千曲川の河川路を挟み北に展開する高野遺跡から51軒の住居址、7基の土坑が検出されているのに対し、岩崎遺跡まで居住域が及んでいない。古墳時代の遺構・遺物も確認されない。すくなくとも奈良時代に至るまで人為的な痕跡をみいだせない。中洲状微高地として確立が該期までなされなく地形的な安定性に問題があったのか、中核集落の規制によるものか今は回答を持ち合わせていない。有段口縁鉢形土器は当センターの千野浩の分析によれば口縁部が先端に至るまで丸味をもっており、その形態から北陸地方の法仏式に並行するものと想定され、胎土に細砂粒の混入が顕著な点を除けば在地のものと判断されるという。高野遺跡でも數点擬円線文系の破片が確認されているが21号土坑のものは個体の残存率が高く、平安時代比定の遺構からの単独出土で、持ち込まれ廃棄された意味は不明である。ブル地点の遺構は出土遺物から奈良時代から平安時代にかけての所産と考えられるが、体育館地点では奈良時代比定の遺構は2号住居址と39号土坑が各1基確認されているにすぎず、居住域としての展開はまだ本格的なものではない。2号住居址は今回の調査で唯一両袖型カマドと煙道が確認されている。土師器環は非ロクロ調整のヘラナデで仕上げるが、甕においては回転利用のカキメが認められる。平安時代に入ると岩崎遺跡にも居住施設が作られるようになるが高野遺跡ほどの密集度をもって展開しない。高野遺跡が母村とすれば枝村として機能していたことがうかがえる。住居址間での単独して検出されたものは少なく、1号と2号および21号住居址、7号と10号住居址、8号と9号住居址、14号と15号および22号住居址、12号と17号住居址、18号と19号住居址が重複関係にある。13号住居址は上下2枚の貼床が確認されている。少なくとも2時期の集落が存在していたことをうかがわせる。規模は13号住居址の一辺6m代の大形遺構を最大にして、5m代の18号住居址を次に、他は4m以下の小規模なものになる。出土遺物をみると量的には総体として少ないが、12号・13号・18号住居址等の大形のものからは他の遺構に比べて多く出土している。1号・13号・14号・18号住居址は須恵器が器種構成からはずれ、土師器環・甕、黒色土器(内墨)壺・椀、灰釉陶器が器種の主体となる。黒色土器のへ

ラミガキは雑なものが目立つ。3号住居址では黒色土器の復元実測可能な破片はない。4号住居址は須恵器は退潮し、小形の土師器壺が出現する。これに対し7号～10号・12号・19号住居址等は什器に須恵器の占める割合が高くなる。しかし須恵器壺は灰白色または白灰色を呈し、火燐痕があり、瓦質で軟質のものが多く見受けられる。即ち前者は須恵器消滅後の10世紀代に、後者は消滅期に近い9世紀後半に位置付けることができる。こうみてくると平安時代では9世紀の中頃に17号住居址が出現し、後半には12号・19号住居址を、10世紀では13号・18号住居址を中心に集落が展開していたものと思われる。井戸址および土坑・溝址の所見については本文中で触れた。中世の遺物の出土が無いものの中世的臭いが強いものがある点についても記述した。井戸址においては狭い調査範囲に5基以上存在が予想され、同時に存在機能していたのか、順次に掘削し結果としての存在なのか数において理解に苦しむ。また、井筒は石積みを予想しているが、きれいに抜き去られている。カマドの構築石材もほとんどみられ無く持ち去られている点も何の目的を持っての行為かこれまた理解に苦しむ。また、大形の円形土坑も高野遺跡よりはるかに多く掘られており数の点でも用途の点でも今のところ回答を用意できない。最後に土器皿・白磁・青磁・珠洲焼等の中世的遺物を出土している遺構は1次面の6号住居址と土坑に限られ、21号・25号・27号・31号・34号・36号土坑である。27号土坑を除き円形の大形土坑に属する。6号住居址は変形プランで、床面が鍋底状を呈する特色がある。中世の遺物を分析していただいた原明芳氏の見解を土坑の項で記したがまとめて再記載する。白磁は11世紀後半から12世紀代にみられるII類・IV類・V類の碗であり、青磁は12世紀後半の同安窯系碗・龍泉窯系画花文碗、13世紀代の龍泉窯系蓮弁文碗で、土器皿は京都系で12世紀後半以降に出現し、珠洲焼搖籃および東濃産白土原1号窯式山茶碗は13世紀代に比定されるという。また結論として白磁以外の遺物をみると12世紀後半以降であり、白磁年代と矛盾はなく、遺物群の上限は12世紀後半に求められ、下限は13世紀代に収まるとの指導を受けた。しかし、中世村落または遺構の存在の歴史的背景をうかがえる結論を導き出すことができなかった。今後の調査事例に期待したい。（矢口）

報告書抄録

ふりがな	かわだしやかたあと・いわさきいせき
書名	川田氏館跡・岩崎遺跡
調査名	川田保育園地点、綿内小学校プール・体育馆地点
シリーズ名	長野市の埋蔵文化財
シリーズ番号	第98集
編集者	矢口忠良・風間栄一
編集機関	長野市教育委員会埋蔵文化財センター
所在地	〒381-2212 長野県長野市小島田町1414 Tel 026-284-0004
発行年月日	2001年3月31日

所収遺跡名	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
川田氏館跡	長野県長野市若穂川田	20201	G-205	36度 37分 13秒	138度 16分 38秒	19990712 ~0809	680	川田保育園改築
岩崎遺跡	長野県長野市若穂綿内		G-010	36度 36分 3秒	138度 14分 45秒	19941024 ~1108 20000420 ~0616	100 1,050	綿内小学校プール改築 体育馆改築
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
川田氏館跡	館跡	中世・戦国	貼床状遺構 掘立柱建物跡 堀跡・土坑		土器皿、内耳鍋、青磁・白磁碗・珠洲・常滑焼、古銭、鈴、羽口		館跡東端の工作遺構	
岩崎遺跡	集落跡	奈良～中世	住居址・井戸址 土坑・溝址 掘立柱建物跡		土師器、須恵器、灰釉・綠釉陶器、土器皿、珠洲焼、山茶碗、青磁、白磁、紡錘車		田千曲川による中洲状微高地の集落跡	

長野市の埋蔵文化財第98集

川田氏館跡・岩崎遺跡

平成13年3月26日印刷
平成13年3月31日発行

編集 長野市教育委員会
発行 埋蔵文化財センター
印刷 信毎書籍印刷株式会社